

主な御意見	
草津市認知症初期集中支援チーム	<ul style="list-style-type: none"> ・薬局で「認知症なのでは?」「このまま独居で大丈夫か」と気付くこともある中で、薬局から地域包括支援センターへつなげるのか、逆に関わっている専門職が薬に関する相談等を薬局に持ち込めるのか、チーム内での顔の見える関係、お互いに話しやすい環境作りのきっかけをつくるべきではないかと感じている。 ・相談内容では、BPSDの相談が22件あり、家族の介護負担から相談に繋がる人が多いと分析されている。こういったことが負担の増大につながったのか、事例を通じて支援やケアマネジメントなどを共有し分析することも重要と考える。 ・目標とする「目指す姿」への検証をどのようにされるのかをお聞きしたい。 ・初期集中支援チームがあること、手続きの方法など、もっと市民にPRしないと地域の方はほとんど知らないと思う。 ・認知症の症状が変化して、家族が混乱しているケースもある。ケアマネジャーだけで抱え込まずに相談されることを期待する。 ・初期に支援を受けるのが重要であるが、「本人が嫌がる、家族が嫌がるあるいは理解が少ない」「一人暮らしは勿論、高齢者だけの家庭や、若い人と暮らしていても家族が気が付かなかつたり認識が浅い」「日常生活に追われて後回しになる」「本人が周りの人と接しないため誰も気づき難い」等で対策が遅れてしまう。民生委員が気付いていても有効な対策が打てない、あるいは言っても理解してもらえない、ということをいくつか見てきたので、これらに対する施策を更に充実していただきたい。